

研究活動報告

スリランカ人口学会

2024年2月17日(土)にスリランカ・コロンボにてスリランカ人口学会年次会合が行われ、筆者は招かれ基調講演を行った。スリランカ人口学会は1997年に発足し、研究者、政策担当者など326人の会員を擁する人口学に関する学術組織であり、その事務局はコロンボ大学に置かれ、国連人口基金(UNFPA)やスリランカ統計局、スリランカ家族計画協会との連携も深く、今回の年次会合もそれら多くの関係者が参加した。インドからも参加者があり、またハイブリッドで行われたことから米国などからの報告もあった。

南アジアにおいてスリランカは、早くから教育水準が向上し、それに応じた死亡率の低減、生活水準の向上があった国である。スリランカ人口学会大会の後、コロンボ大学にて講演を行ったが、参加した学生のほとんどは女性であった。国立大学は授業料が非常に低く抑えられており、入学試験の倍率が非常に高く、特に人口学など人文社会科学分野では、女性の割合が非常に高くなるとのことであった。近年では少子高齢化が進行し、合計特殊出生率は1.97と置き換え水準を下回り、65歳以上人口割合は11.9%で、今後急速に増加すると見込まれている。スリランカにおける老年医学、介護制度は比較的整備されてきてはいるものの、現在の経済危機や政治状況の混乱により、適切な高齢者施策が実施されうるのか、課題も少なくないようである。(林 玲子 記)

日本人口学会関西地域部会・2023年度研究集会

日本人口学会関西地域部会・2023年度研究集会は、2024年3月16日(土)に神戸大学文学部(オンライン併用)で行われた。下記のとおり、プログラムは自由報告とシンポジウムの2部から構成された。

○自由報告

司会：中島満大(明治大学)

小島宏(早稲田大学) 関西在留外国人でコロナの濃厚接触確率が高く、感染確率が低めなのはなぜか

佐藤龍三郎(中央大学経済研究所) 日本におけるマルサス受容と人口論の形成：日本人口学会2024年大会企画セッションに向けて

○シンポジウム「日本の出生転換はいかに進展したのか」

司会：平井晶子(神戸大学)、中澤港(神戸大学)

コメンテーター：佐藤龍三郎(中央大学経済研究所)、中島満大(明治大学)

<特別講演> 大出春江(大妻女子大学) 近代日本の乳幼児死亡と出産の医療化－産婆と産院の制度化の視点から

小池司朗(社人研) 戦前における市区町村別出生力の空間パターン－東京圏・大阪圏の比較分析
村越一哲(駿河台大学) 戦前期における農家の結婚出生力

討論

当日は、自由報告・シンポジウムともに、オンライン参加者も含めて活発な質疑応答が交わされた。筆者にとっても拙報告に関連する様々な気づきが得られ、非常に有意義な機会であった。

(小池司朗 記)

第76回数理社会学会大会

第76回数理社会学会大会 (JAMS76) は、2024年3月16日 (土)・17日 (日) の2日間、大阪大学吹田キャンパスを会場として開催された。今大会では、コロナ禍以降はじめて対面での懇親会が開催されたこともあり、参加申し込みは会員108名 (うち学生24名)、非会員60名 (うち学生32名) と、非常に盛況であった。報告数も90件 (口頭28件、ポスター62件) を数え、年2回開催されるこの規模の学会大会としては異例の数であった。テーマも健康、教育、ジェンダー、空間など多岐にわたり、社会科学における数理・計量を共通項としながら、各所で活発なディスカッションが展開されていた。

国立社会保障・人口問題研究所からは、以下の所員が報告を行った。

●自由報告 (口頭発表)

毛塚和宏「男性家族介護者をとりまく諸相：2022年生活と支え合いに関する調査の分析から」

榊原賢二郎「中途障害と高齢期の経済状況：有向非巡回グラフに基づく心身の損傷の因果効果の推定」

●萌芽的セッション (ポスター発表)

佐々木織恵「子ども食堂の認知状況と利用状況の関連要因の分析」

毛塚和宏「社会保障制度への態度、生活保護受給と生活満足度の関連：実態と意識の齟齬は生活満足度の低下を招くか」

吉田航・尾藤央延 (東京都立大学)「育児休業の利用が管理職への昇進に与えるペナルティ：オンラインサーベイ実験を用いた検証」

麦山亮太 (学習院大学)・松田茂樹 (中京大学)・大久保心 (日本学術振興会、東京大学)・藤間公太 (京都大学)・余田翔平「いかなる少子化対策が未婚者の出生・結婚意欲を高めるか：要因配置実験による検証」

●会員企画セッション

吉田航・藤原翔 (東京大学)・新田真悟 (東京大学大学院)「社会学の研究実践における諸問題」(セッション企画)

自由報告第1部会「健康とライフコース」では、毛塚研究員、榊原室長が、いずれも「生活と支え合いに関する調査」の分析結果を発表しており、研究所の成果を所外に公表するという意味でも意義のあるセッションだったと思われる。また、私が共同企画者として発案したセッション「社会学の研究実践における諸問題」では、結果の妥当性の確保や研究計画の事前登録、データの公開や調査における同意の調達など、日々の研究実践に深くかかわる諸トピックについて発表・議論がなされ、所内業務を行ううえでも有意義な内容だったと感じた次第である。

今回の JAMS77 は、2024年夏に東北大学で開催予定である。

(吉田 航 記)